

台風12号発生 発達し沖縄方面に接近のおそれ

we support ↓



MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
「すけまきた」しんぶん
復興支援
かめばん

「すけまきた」とは
宮城県登米市あわりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である



大雨の備え

tenki.jp

避難場所・避難経路の確認

- ✓ 複数の避難場所
- ✓ 複数の避難経路
- ✓ 浸水・土砂災害の危険性が高い場所

非常用品の準備

側溝などの掃除

9月に入り台風が続き、物資の不足など不安も多い状況ですが、落ち着いて対処していきましょう。

9月8日(木)午前9時、フィリピンの東で台風12号「マイファア」が発生しました。中心気圧は1000hPa、中心付近の最大風速は18m/s、最大瞬間風速は25m/sとなっています。台風12号は今後、発達しながら次第に進路を北よりにとり、日曜日から月曜日ごろに南西諸島へ近づくと見通しです。

福島県双葉町 約11年半ぶりに一部の避難指示解除

(2022年8月30日 NHK NEWS WEBより抜粋)

東京電力福島第一原子力発電所が立地し、すべての住民の避難が続いてきた福島県双葉町で、30日午前0時に帰還困難区域の一部の避難指示が解除されました。本格的な帰還に向けた避難指示の解除は双葉町では初めてで、原発事故に伴って避難指示が出された自治体のなかでは最後になりました。

福島第一原発が立地する双葉町は、2011年の原発事故のあと町の全域に避難指示が出され、すべての住民の避難が続いてきました。

双葉町は、面積と事故前の居住人口ともに、全体の95%を放射線量が比較的高い帰還困難区域が占め、役場や中心市街地なども含まれていました。

このため町は、JR双葉駅周辺の市街地を含む帰還困難区域5.5平方キロメートルについて特定復興再生拠点区域として国の認定を受け、インフラ整備とともに除染が進められてきました。

そして30日午前0時に避難指示が解除され、およそ11年半ぶりに住民が居住できるようになりました。

本格的な帰還に向けた避難指示の解除は双葉町では初めてで、原発事故に伴って避難指示が出された12の自治体のなかでは最後になりました。

双葉町ではすでに先行して避難指示が解除されている一部の地域も含めて、住民が居住できるようになった地域には、先月末時点で町の人口の64%に相当する1449世帯3574人が住民登録しています。

ただ、避難の長期化で町に帰還する住民は一部にとどまるとみられ、今後どのように町の復興を進めていくかが課題となります。



▶「避難指示の解除は目に見える町の第一歩だと思います。これからも町のためというよりも、自分のために町を盛り上げていきたいと思っています」(いわき市・福田一治さん)

▶「町に戻る住民は少ないですが、ここが底辺でこれから毎日少しずつ住民が増えると確信しています。最後に住民が帰還する自治体だからこそできることもあると思うので、おもしろい町になると思います」(伊澤史朗町長)

双葉町では住民などでつくる団体がふるさとの復興の前進を祝うイベントを企画し、JR双葉駅前の会場に住民や役場の担当者たちが集まりました。

そして震災と原発事故で亡くなった人を悼み、復興の願いを込めて並べられたおよそ2000本のキャンドルに火をともし、辺りは温かな光に包まれました。

このあと避難指示が解除された午前0時に合わせて、住民の代表がイベントのために用意された扉を開けて「ただいま」と言うとおもてなされた大勢の人たちが「おかえり」と心え、ふるさとの復興の前進を祝いました。